

【教科横断型】あさひのユニット（5月）について

【内容】 1つのテーマに関する授業を実施

【テーマ】 **新型コロナウイルスと人類**

【対象学級】 3学年（A～E組）

【実施時期】

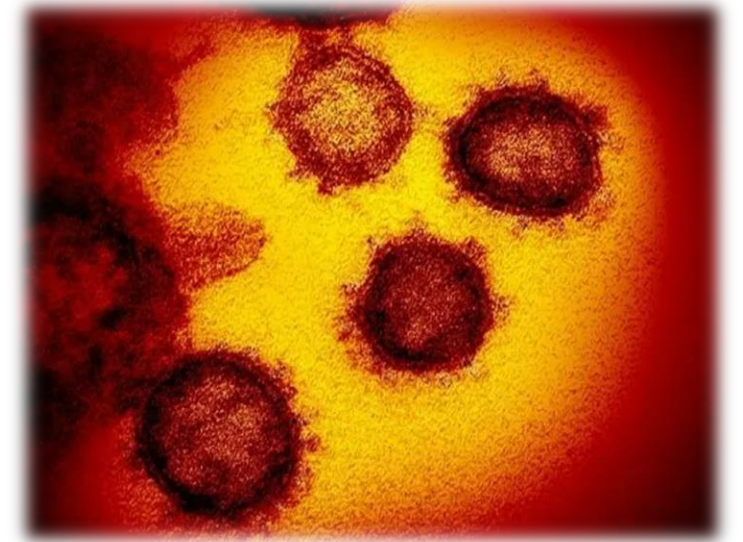
5 / 16（水） テーマに対する問いを決め出す

5 / 17（木）～30（木） 各教科でテーマに関する授業を実施

5 / 31（水） テーマに対する問いの答えをまとめる

【評価】 Classroomで配付されたスライドを編集する

完成したスライドを課題として提出する（6 / 2まで）



【教科横断型】あさひのユニット（5月）実施内容

国語	「私とコロナウィルス」に対する自分の思いを表現する	音楽	コロナ禍に生まれた曲に出会い、それぞれのよさを聴き深める
社会	新型コロナウイルスがもたらしたものは何か考える	美術	感染症対策のピクトグラムのデザインを検証する
数学	5類に移行する日が妥当だったかどうか考える	保体	コロナ禍の運動不足で増加した子どものけがを防止するためにできることについて考える
理科	効率のよい換気の方法について考える	家庭	模擬家族に提案する住宅の工夫について感染予防の視点で再検討する
英語	"What do you think about wearing masks?"という問いに向けて、自分の考えを伝え合う	技術	どのような計測・制御システムがあるかとアフターコロナ時代を安心・安全に過ごすことができるかを考える

テーマに対する問い

3年

【テーマ】新型コロナウイルスと人類

【問い】追究したいこと、疑問に思ふこと、など

人類はコロナ禍を経て、どのようにインターネット、SNS（情報）と向き合うようになったのか

【理由】

私達が、2020年に臨時休校になっていくときに、SNSというものがすごく変わったような気がする。そして、「マスクが不足している」とかのデマが出回ったりしていた。人々の情報の向き合い方はどのように変わったのか。



授業
実施後

自分の問いに対して、
教科横断的な視点で
社会・数学・音楽の
学びを振り返り、
テーマに対する自分の
考えをまとめた姿

テーマに対する問いに対する答え

3年

【問い】人類はコロナ禍を経て、どのようにインターネット、SNS（情報）に向き合うようになったのか

【問いに対する答え】

人類は新型コロナウイルスの流行による影響でステイホームの時間がとても増えた。そのため、家でもできることというものが需要を伸ばした。その一つにインターネット、SNSがある。社会では自分で「音楽」「情報」という視点をもって風土記を作成した。そこでは、サブスクや通販の需要が伸びた一方で、ネットと向き合う時間が増え、生活リズムが乱れたり、ネット上での悪質なデマが流れたりしたことで不安感を抱く人が急増したことが分かった。数学では、「5月8日で5類に下がったことは妥当だったのだろうか」という問いをもち、様々なデータを利用し、検証した。その中で、コロナ禍になって感染者やワクチンの接種率など様々なニュースが世の中に出回っていた。コロナ禍を経て、人に会えない分、家からでも情報を得ることができるSNSやインターネットで情報を集めていたことがわかる。音楽では、コロナ禍でリリースされた音楽について鑑賞した。情報はニュースで得るだけではない。音楽からもコロナ禍で感じた思いを情報として受け取ることができる。このように、コロナ禍を経て、向き合い方も変化した。